

「裏磐梯紀行(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



下車駅の猪苗代駅の一つ手前に「川桁(かわげた)」という駅がある。降りた乗客は数名だった。



私はこの駅の停車を「気にして」いた。かつてこの駅を起点とする、私鉄が存在したからだ。もともとは「日本硫黄沼尻鉄道」と称し、硫黄の運搬のために敷設された鉄道だった。その後「磐梯急行電鉄」と改称したが、磐梯方面とはまったく関係のない路線だったので、観光利用はなく、昭和44年に廃止された。駅前には、廃線駅跡の記念碑が建っている。

川 桁 — 沼 尻 (日本硫黄沼尻鉄道)				(日本硫黄沼尻鉄道)													
451930	料 円	沼川	桁@着	641	757	1011	1231	1406	1532	1659	1831						
571942	3.6	20	会津下館 発	630	746	1000	1220	1355	1421	1848	1820						
381953	7.7	30	会津橋ノ口	618	735	949	1208	1343	1408	1636	1809						
212005	11.7	50	木地小屋	606	722	936	1156	1351	1456	1624	1756						
542018	15.6	60	沼尻 発	555	710	925	1145	1320	1445	1613	1745						

沼尻鉄道時代の時刻表を見ると、一日8往復と意外にも本数が多い。その後「磐梯急行電鉄」と名乗っておきながら、廃止になるまでずっと「非電化」だった。



川桁駅を過ぎると、霧に煙る磐梯山が見えてきた。手前の川は長瀬川である。長瀬川は裏磐梯を源流に、猪苗代湖に流れ込む、阿賀野川水系の川である。



磐越西線は、猪苗代駅を挟んだ区間が、磐梯山の風景が一番美しい。曇っていて時刻も遅く、車窓風景がよく見えなかったのが残念だったが、それでも水田に反映する磐梯山の姿を楽しむことができた。



列車は定刻に猪苗代駅に到着した。さすが磐梯観光の玄関駅だけあって、多くの乗客が降りた。駅員さんに「記念に切符をいただけますか?」と聞いたら、「無効・猪苗代駅」というゴム印を押してくれた。